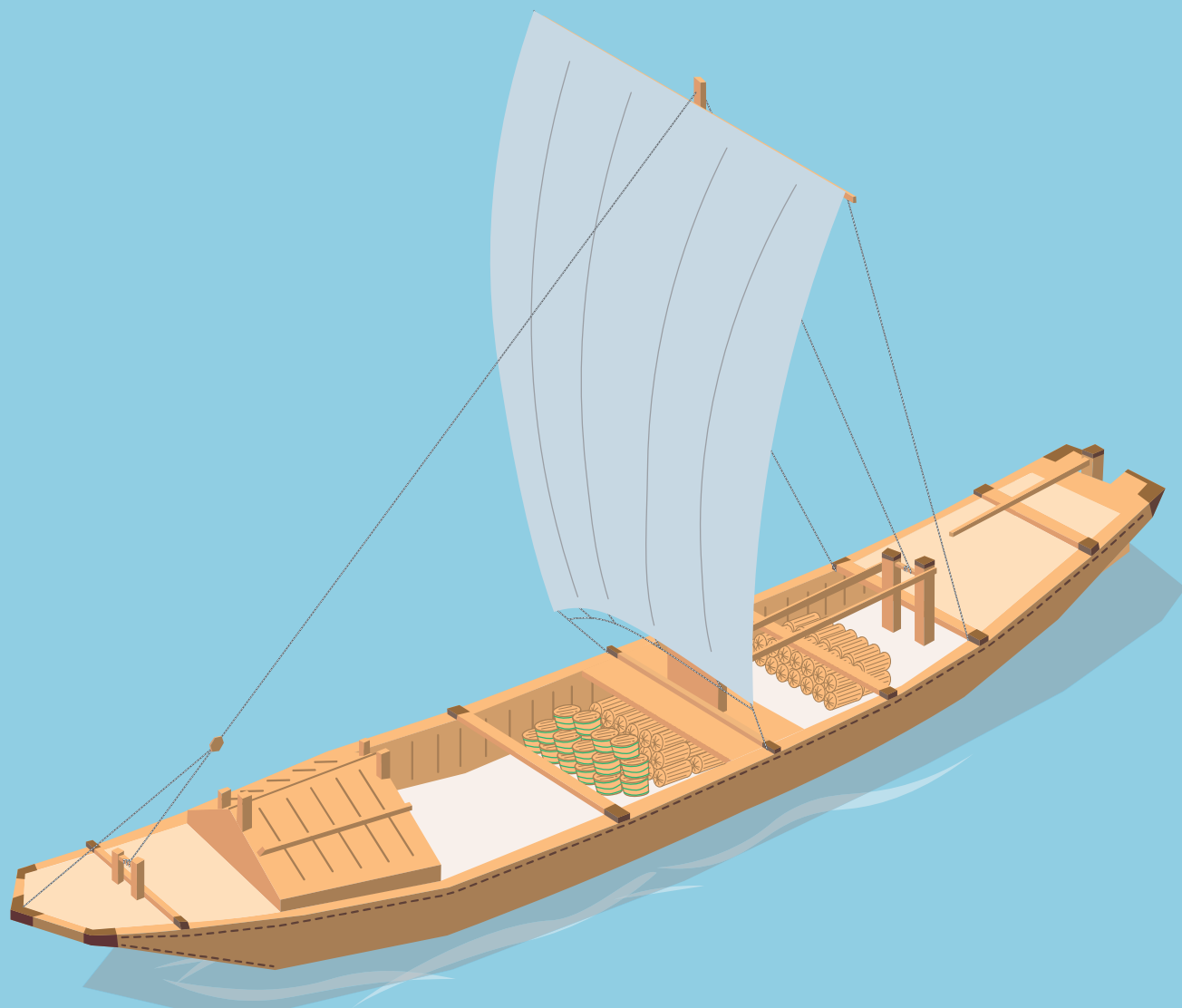


千葉県立中央博物館 令和7年度トピックス展

利根川の高瀬船

令和7年 10月11日[土] - 12月7日[日]



千葉県立中央博物館 第2企画展示室 [千葉県千葉市中央区青葉町 955-2]

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は翌平日）

開館時間 9時～16時30分（入館は16時まで）

入場料 一般 300（240）円、高・大学生 150（120）円
※（ ）内は20名以上の団体料金
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳等をお持ちの方及び介護者1名は無料

ミュージアムトーク

10月19日（日）、11月15日（土）、12月6日（土）

※各日11時30分、14時30分開始 参加費無料（入場料は必要）

最新情報は
博物館 HP へ



利根川の高瀬船

令和7年10月11日(土) - 12月7日(日)

かつて利根川は北関東一円と江戸、銚子を結ぶ水上交通の大動脈として重要な役割を果たしており、陸上交通にその役目を譲る昭和初期まで大小さまざまな川船が行き交っていました。舟運の発達には醸造業など流域の産業発展を促し、問屋や蔵が立ち並び河岸には多くの物資や人が集まっていた。

本展示では、利根川中下流域の水運を伝える資料として今年3月に国の登録有形民俗文化財となった「利根川中下流域の川船及び関連用具」のなかから、国内最大級の川船であった「利根川の高瀬船」についてご紹介します。



★ 利根川高瀬船 1/5 模型



葛飾北斎 富嶽三十六景 常州牛堀 ※パネル展示



★ お櫃（ひつ）、そろばん



★ 滑車（かっしゃ）



★ 鉋鑿（つばのみ）



★ 神棚（かみだな）

第1章 利根川の水運

高瀬船の航路や船上のくらし、
大量輸送が可能にした利根川流域の産業などを紹介

第3章 高瀬船の船大工

板同士を継ぐ船釘や、
板の継ぎ目からの水漏れを防ぐマキハダ詰めなどの道具など、
船の製作に使われる道具とその技術を紹介

第2章 高瀬船の姿

模型や船体部材（舵や帆、滑車など）から
国内最大級の川船とされる高瀬船の構造を紹介

第4章 高瀬船をめぐる願い

安全運航を願う船頭の信仰を集めた「あんば様」、
船大工の信仰を通じた同業者の結束を紹介

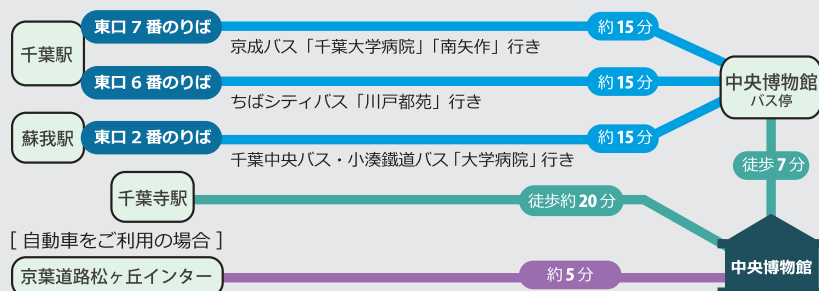
国登録有形民俗文化財「利根川中下流域の川船及び関連用具」

県立中央博物館、大利根分館、県立関宿城博物館では、利根川の中下流域において水運や生活に用いられた川船と、船の操作や修理・製造などに使われた用具、造船や船大工の信仰に関する古文書等の収集を行ってきました。

この3館が収蔵する資料 656 点が、令和7年3月に「利根川中下流域の川船及び関連用具」として登録されました。

本資料は高度経済成長期以前の利根川中下流域の水運を今に伝える貴重なものです。

本展示では、このうちの 50 点を展示します。 ※画像タイトルの★印は、国の登録有形民俗文化財であることを示しています。



千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2（青葉の森公園内）
TEL 043-265-3111（代表）

- JR千葉駅東口から、バス約15分「中央博物館」下車＋徒歩約7分
- JR蘇我駅東口から、バス約15分「中央博物館」下車＋徒歩約6分
- 京成千葉寺駅から、徒歩約20分
- 自動車の方は「青葉の森公園北口駐車場」（有料）をご利用ください



中央博 X
@chiba_chuohaku